

SSSポンド混練手順書 [#500]

1 主剤容器を左手でわしづかみし、ジョイントキャップを親指と人差指でつまみます。

2 硬化剤容器のジャバラをジョイントキャップ側に2~3山程縮めた状態中にある反応防止栓を右手の親指と人差指でつまみます。

3 反応防止栓をつまんだまま、右手の硬化剤容器を反対側に約1/4回転させてゆるめてから、再度もとのようにしめます。

4 左手を固定し、右手の反応防止栓を右方向に完全に引き抜きます。

5 反応防止栓を図のように硬化剤容器側に横にします。

6 硬化剤の底部が凹になるまで主剤容器にすべり押し出します。

A または B の手順で混練します。

A 手練りの場合

7 主剤容器側を押し縮めます。

8 ジョイントキャップを持ったまま左手を反転させます。

9 硬化剤容器側を押し縮めます。(この時、反応防止栓が主剤容器側に移動しないように注意します。) ※7~9を3~4回くりかえし、色が均一になる事を確認します。

10 主剤容器のジャバラを整えてから硬化剤容器にジョイントキャップをつけたまま外し、空気を抜いて注入ポンプのヘッドにセットします。

B 混練棒を使用する場合

7 主剤容器側にジョイントキャップを残し、硬化剤容器だけ外します。

8 空気を抜いてから混練棒の頭部をジョイントキャップに装着します。

9 混練棒を底部まで押し込み3~4回繰り返して往復させた後に、底部の白い部分を親指で押し込んだまま両手で2~3回もみます。さらに3~4回混練棒で再度往復させます。容器を完全に伸ばし、色が均一になった事を確認します。

取扱注意事項

夏 期

気温が高い場合、硬化時間が極端に早くなることがあります。直射日光下や車中に放置しておきますと、SSSボンド自体の温度が50℃を超えてしまい、そのまま使用しますと約5分程度で硬化してしまいます。したがって、カートリッジの総量を使いきる事ができなくなります。この様な場合は、混練する前に、バケツ・流水等で30分以上冷却させ、25℃位にしてから使用します。

冬 期

気温が低い場合、粘度が上がるとともに、硬化時間が極端に遅くなります。したがって5℃以下の場合は注入作業を中止します。
硬化を早めたい場合は、夏とは逆にお湯等で加温（約20℃）してから混練りし、注入してください。混練しやすくなりますので硬化不良も防止できます。

SSS注入ポンプの分解と組立手順書

1. 胴をヘッドから外してください。
2. 10 mmスパナでノズルを外してください。
3. A…17 mmスパナでジョイントナットを外して、Oリング・スプリング・ボールの3点を取り出してください。
B…5 mmの六角レンチで六角穴付止めネジを外してください。
4. (2) (3) で外した部品、ヘッド、及び胴のねじ部分をノズル洗浄ブラシと専用溶剤または、エポキシシンナー・アクリルシンナー・ラッカーシンナーにて洗浄してください。
5. (4) で洗浄した部品をそれぞれもと通りにヘッドに取り付けてください。
6. ピストン及び可動部に付属のオイルを注油してください。
7. (5) で部品を取り付けたら、ヘッドに胴をはめてください。

【注意事項】

- 部品をもと通りに組む場合、スプリング、ボールをヘッドに入れて六角ジョイントナットを取り付けてください。
- ピストンにキズを付けますとヘッドに入らなくなる恐れがありますので注意してください。
- 洗浄が不十分ですと、SSSボンドが硬化してうごかなくなる恐れがありますので入念に洗浄し、オイルを注油してください。
- 部品等は予告なく変更する場合があります。

